

令和 8 年度一般選抜入試

『現代の国語、言語文化』出題意図

1 期 A 日程・B 日程・3 期の「国語」においては、評論・随筆・ジャーナリズム・文芸作品の文章を題材に、大問 3～4 題／30 問を出題した。文章の内容・要旨、筆者の意見・主張の正しい把握のみならず、「国語」で学んだ知識・用法全般を問うもので、解答はすべて選択式である。文章中の内容を文脈に沿って適切に把握できているか、筆者の意見・主張を理解できているかを問う問題については、丁寧に問題文を読み込み、慎重に選択肢を比較することで正答にたどりつく出題を主とした。そのため、適切な解釈を選ばせる問題だけでなく、原文から省かれた語や文を補充する問題、原文中の表現の言い換えを求める問題を出題した。「国語」で学んだ知識・用法については、句読点・鍵かっこなどの符号や漢字など表記に関しての正確な理解と運用に関する問題、正確な語彙知識に基づいて文章を理解したり語彙を適切に使用したりできるかを測る問題、語彙の幅とその応用としての慣用表現について問う問題、効果的な修辞法の名称と使い分けを確認する問題、作家・作品・文学結社などの文学史について問う問題を出題した。

自由選択試験の「国語」においては、2 期、4 期とも、1 問 1 答式と文章題による構成とした。文章題では、随筆的な短めの文章を用いて、文脈の読み取りや書かれている内容の理解を問う問題を出題した。手書きする機会が減少している現状を念頭に、該当する漢字を選択する設問を例年より多くした。1 問 1 答式では、語彙についての正確な知識と適切な表現についての習熟度を測る問題を主とした。慣用表現、敬語など日本語コミュニケーションに関するもの、また構文的に適切でない文を特定する文法的な分析力を要するものも出題した。

例年、表現力を測る設問は多い。文法や文学史、言語の技巧についての知識を問うこともある。広く「国語」の基礎をおさえておくことが望ましい。